

(公社) 日本設計工学会 (JSDE) 主催 講習会 (大阪会場)
(一社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) 後援
協賛：(一社) 日本機械学会・(公社) 精密工学会
『幾何公差の基礎 —設計意図を明確に表現できる幾何公差— 』

開催日：平成 29 年 6 月 18 日 (日)，申込締切：平成 29 年 6 月 2 日 (金) 大阪会場

開催趣旨

ものづくりにおいて、設計者が設計意図を製造現場に伝えるために、図面を正確に表現することはとても重要です。近年、グローバルなものづくりが展開されるようになってからは、製品の品質化、高精度化がさらに要求されてきました。また、設計および製造期間の短縮やコストダウンも求められており、設計者はグローバルなものづくりに対応できる図面作りが求められています。世界の製図規格は、ISO による国際規格 (あるいは JIS) と ASME (米国機械学会) による米国規格に大別されています。幾何公差が寸法公差に比べ設計意図を十分に表現できる有効な手段であるということで、世界の主な製造業、米国や欧州、航空機・自動車業界は「幾何公差表示方式(JIS B 0021)」を採用しているということもあり、ISO 及び ASME も幾何公差表示方式中心の製図規格が主流になっています。しかし、日本では「寸法公差方式(JIS B 0401)」を主体としてもものづくりが発展してきた経緯があり、あいまいさのない図面を作成するために幾何公差の必要性を理解していても、幾何公差を修得するのは大変なのではないかとお考えになられる技術者の方々も多くいらっしゃると思います。

本講習会では、「幾何公差の基礎」と題し、幾何公差を身につけていただくための基礎となる知識をしっかりと固めていただけるような内容を一日に集約いたしました。これから本格的に幾何公差を身につけようとする大学・高専の学生、3D-CAD を設計ツールとして活用する設計者、3D データをものづくりに活用しようとしている技術者の皆様に非常に役立つ内容となっております。是非ご参加いただき、幾何公差をご活用するきっかけになれば幸いです。心よりお待ちしております。

日 時：平成 29 年 6 月 18 日 (日) 9:00~17:30

会 場：(株) 電通国際情報サービス 関西支社 会議室

(〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-2-28 アクシスビル内) (詳細は次頁)

司 会：高橋 俊昭 (3D+1 ラボ, DTPD (3D 製図) JIS 開発委員会 WG 委員)

| 内容 (予定) | 講師 (予定) |
|--|---------------|
| 1. 幾何公差のための基礎事項 JIS/ISO/ASME の概要，形体とデータム，普通幾何公差 | ソニー (株) 亀田 幸徳 |
| 2. 幾何公差の基礎 寸法公差と幾何公差の違い，幾何公差の種類と内容 | 富士ゼロックス 高橋 保人 |
| 3. 実践幾何公差活用 設計要求と幾何公差指示，幾何公差の検証 | 想図研 小池 忠男 |
| 4. まとめ | ※昨年度 講師実績 |

定 員：20 名 定員になり次第締め切ります。

参加費 (テキスト代含む)：正会員 8,000 円，学生会員 1,000 円 (協賛学会の正会員・学生会員を含む)

非会員 10,000 円，学生非会員 2,000 円

申込先：以下の URL からお申込みください。

http://www.jsde.or.jp/htdocs/?page_id=108

研修会場アクセス

(株) 電通国際情報サービス 関西支社 会議室

(〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-2-28 アクシスビル内)

京阪中之島線 渡辺橋駅 (徒歩 3分)

JR 大阪駅 (徒歩 12分) ・北新地駅 (徒歩 8分) など

※近辺に有料駐車場はありますが、お車でのご来場はご遠慮いただくのがよろしいかと思います。

※昼食は、各自でご準備いただくか、近辺のコンビニ・食事処などでお済ませください。



以上